

航空自衛隊土佐清水分屯基地整備

政策提言先 防衛省

政策提言の要旨

南海トラフ地震の発生時、県内各地が孤立するおそれがある中で、四国西南地方は特に厳しい状況となり、自衛隊などによる応急救助活動が必要不可欠となります。

このため、航空自衛隊土佐清水分屯基地を拡充し、給油施設や緊急物資備蓄倉庫も備えたヘリポート関連施設を整備することを強く提言いたします。

【政策提言の具体的内容】

1 土佐清水分屯基地の拡充

南海トラフ地震発生時における迅速な応急救助活動のための拠点機能を確保するため、土佐清水分屯基地の敷地を拡充すること。

2 土佐清水分屯基地における給油施設、備蓄倉庫などの施設整備

四国西南地方での災害対策等のため、ヘリ用の給油施設や緊急物資の備蓄倉庫などの施設整備を推進すること。

【政策提言の理由】

- 自衛隊は、災害の発生時には、被災者の捜索・救助、水防、医療、防疫、給水、人員や物資の輸送といった様々な活動を行ってくださっており、災害対応を行う地方自治体にとって非常に心強い存在です。
- 甚大な被害が想定されている南海トラフ地震発生時には、各地が孤立するおそれがあり、それぞれの地域で応急救助活動や医療活動といった災害派遣をお願いすることになるものと考えています。
- 特に、四国西南地方の土佐清水市は、県の計画において道路啓開日数が17日と想定されており、孤立が予想される地域の中でも厳しい状況にあります。
- 孤立地域へのアクセスにはヘリが必要ですが、自治体がヘリ用の給油施設を整備、維持するには限界があります。
- 土佐清水分屯基地にヘリ用の給油施設、緊急物資備蓄倉庫などが整備されれば、同基地が四国西南地方の応急救助活動拠点の一つとして機能することとなります。
- 併せて、我が国の西南地域における防衛（国民保護）態勢が充実するものと考えています。

【高知県担当課】 危機管理部 危機管理・防災課

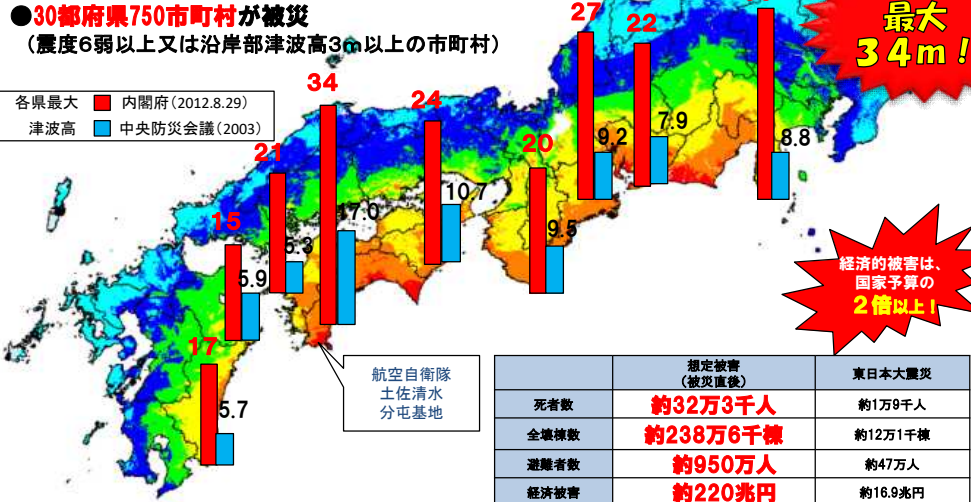
航空自衛隊土佐清水分屯基地整備について【政策提言】

高知県

南海トラフ巨大地震による被害想定

●30都府県750市町村が被災
(震度6弱以上又は沿岸部津波高3m以上の市町村)

各県最大 津波高
内閣府(2012.8.29) 中央防災会議(2003)



	想定被害 (被災直後)	東日本大震災
死者数	約32万3千人	約1万9千人
全壊棟数	約238万6千棟	約12万1千棟
避難者数	約950万人	約47万人
経済被害	約220兆円	約16.9兆円

航空自衛隊土佐清水分屯基地ヘリポート関連施設配置イメージ図



航空自衛隊土佐清水通信隊提供

土佐清水分屯基地

* 四国唯一の航空自衛隊基地 (平成7年3月31日設置)

【業務】

- ・和歌山県串本分屯基地と宮崎県新田原基地を結ぶ通信中継
- ・移動警戒レーダー部隊の受入支援
- ・航空用無線機による通信支援 など

土佐清水通信隊がこれらを担当

【施設】

隊庁舎 (業務スペース、居住施設)、ヘリポート、集会所 (講堂) など
※緊急物資備蓄倉庫やヘリ用の給油施設は未整備

課題

◆南海トラフ地震発生時、県内各地が孤立のおそれ

- ・特に、土佐清水までの道路啓開日数は17日と想定されており、孤立が予想される地域の中でも厳しい状況
- ・地域地域で応急救助活動や医療活動を展開する必要あり
- ・孤立地域へのアクセスにはヘリによる空路の確保が必要だが、ヘリ用の給油施設は、県西部では黒潮消防署の一カ所 (H29年度整備) のみ

◆自衛隊などによる応急救助活動が必要不可欠

- ・土佐清水市近隣での応急救助活動 (救援物資輸送を含む) は、自衛隊など外部の支援が不可欠
- ・加えて、効率的な活動のためには、一定の燃料備蓄が必要

対策

◆土佐清水分屯基地を拡充

- ・立地を活かした業務を効果的に行えるように、土佐清水分屯基地の敷地を拡充

◆関連施設整備を推進

- ・ヘリ用の給油施設、緊急物資備蓄倉庫などの施設整備を推進

効果

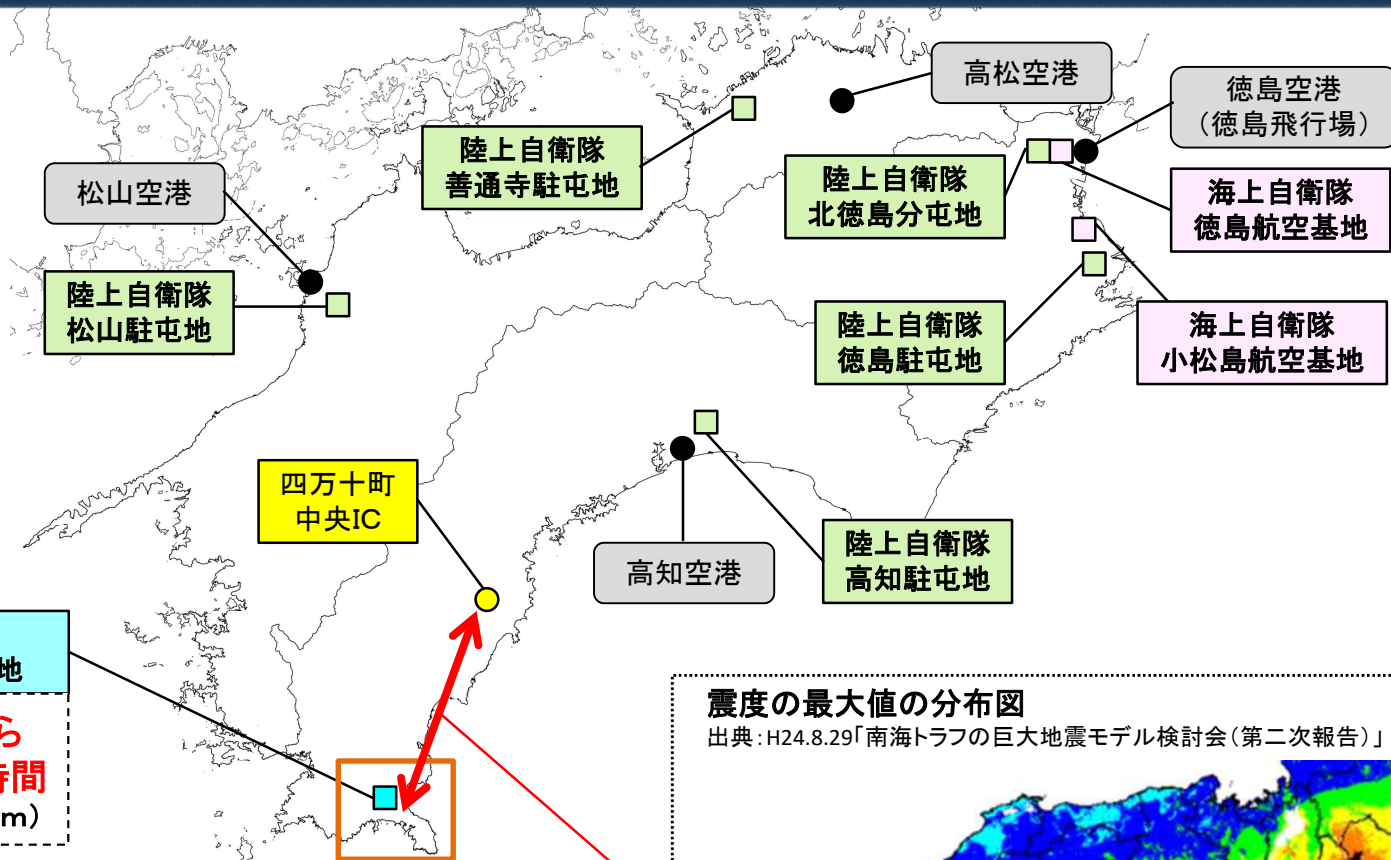
- ◆災害時における迅速な応急救助活動のための拠点機能を確保
- ◆災害対策にあたるヘリの燃料が確保でき、空輸機動力が向上

⇒土佐清水市だけでなく、県西部の応急救助活動拠点の一つとして機能
⇒加えて、我が国の西南地域における防衛 (国民保護) 態勢が充実

提言

南海トラフ地震発生時の応急救助活動の必要性を踏まえ、土佐清水分屯基地を拡充するとともに、給油施設や緊急物資備蓄倉庫も備えたヘリポート関連施設を整備することを強く提言いたします。

四国内の自衛隊基地・駐屯地、空港の位置図



航空自衛隊
土佐清水分屯基地

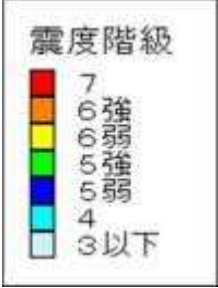
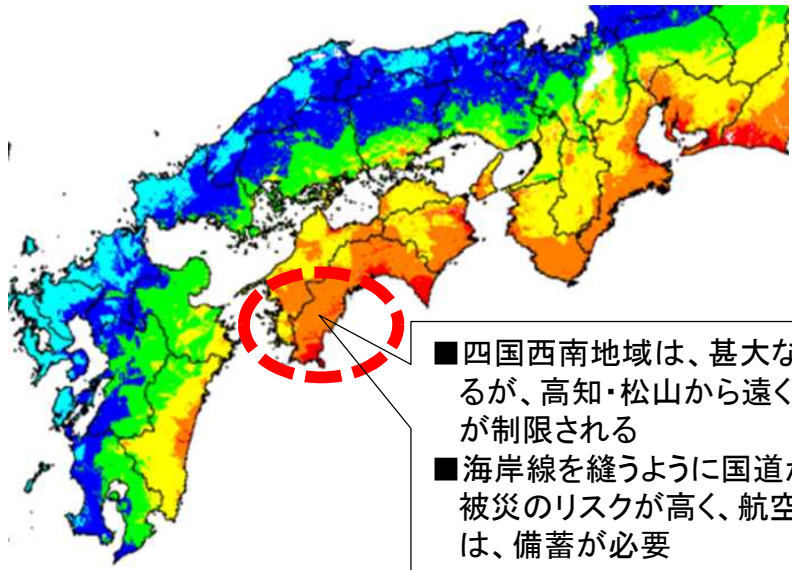
高知・松山から
車で約3~3.5時間
(直線距離 約110km)

土佐清水市までの道路啓開日数：17日
(L2想定：四万十町中央IC⇒土佐清水総合公園)
⇒孤立が予想される地域の中でも厳しい状況

- 道路の被害想定 (L2想定)
- ・浸水区間延長 約 13.2 km
 - ・落石・崩壊等延長 約 0.8 km
 - ・落橋 12箇所

震度の最大値の分布図

出典：H24.8.29「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」



■四国西南地域は、甚大な被害が想定されるが、高知・松山から遠く、航空機の活動が制限される

■海岸線を縫うように国道が通っているが、被災のリスクが高く、航空燃料等については、備蓄が必要